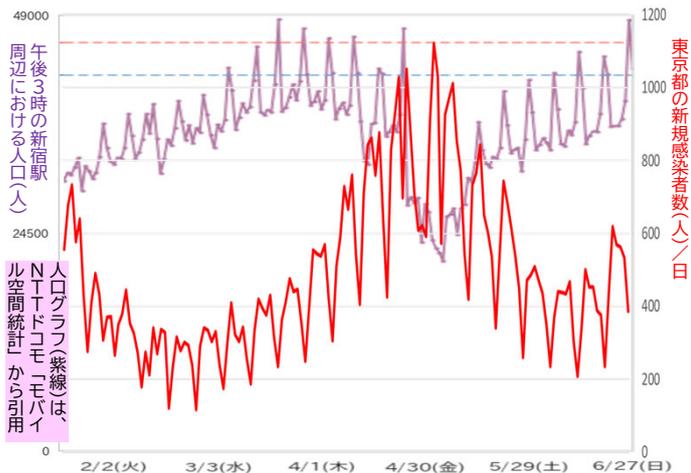


## 東京都 人流が大幅に増加 リバウンドに備え慎重な行動を

6月20日をもって東京都に発出されていた緊急事態宣言が解除されました。しかし、本学ではいわゆるリバウンドの可能性が高いと判断し東京都内のキャンパスでは対面授業制限レベルを「レベル4(週2回・午後のみ)」で維持しています。

実際、6月下旬に入り東京都の新規感染者数は増え続けており、既にリバウンドが発生していると言わざるを得ない状況です。この状況には人流が大きく影響しています。NTTドコモ



が提供している「モバイル空間設計」によると、緊急事態宣言が発出された直後の4月下旬には都心部(新宿)の人流が一時的に減少したものの、その後増加を続けて過去一年間で最大規模となつていきます。4月のデータに現れているように人流がある程度まで増えると、新規感染者が急速に増える傾向があり(左上図)一層の注意が必要です。

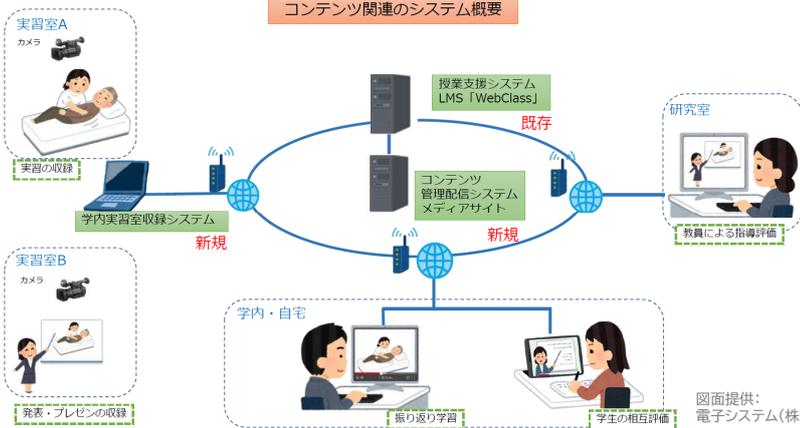
■萩生田大臣からの注意喚起  
ワクチンを接種後でも3つの密(密集・密接・密閉)の回避、マスクの着用、石けんによる手洗いや手指消毒用アルコールによる消毒などの感染予防対策は継続していただくようお願いいたします。

本学では、4月6日に「感染拡大警報」を发出し、右の注意のほかアルバイト(時短要請等に従わない飲食店を避ける)、や会食、イベント参加等に一層の注意をお願いしています。ワクチンを接種した後で同様ですので、千葉県や和歌山県を含め慎重な行動をお願いします。

## 医療技術等の演習・実験・実習 動画コンテンツを改善します

医療保健系の大学では医療技術等の演習・実験・実習はきわめて重要ですが「密接を伴う演習」という面もあるため、感染拡大が著しい時期には実施しにくくなります。この課題を解決するため、本学では代替実習支援システムの一部として「学内実習室収録システム」の整備を進めています。これは高性能なウェアラブルカメラなどと学修支援システム(LMS)を接続し、教員や学生が実演する医療技術等を多くの学生が同時視聴にしやすいものです。7月上旬から段階的に導入を進めて参りますのでご期待ください。

コンテンツ関連のシステム概要



図面提供：電子システム(株)

## 「一歩先の学び支援」に向けて 総合研究所教育DXユニット発足

本学が進めている遠隔授業は、新型コロナウイルス感染症対策の一環でもあります。同時に時代にあった学びを支援するという目的もあります。そこでは新たな授業手法や学修過程・成果の可視化手法を研究開発することも必要です。このため、東京医療保健大学総合研究所(所長・学長)に教育DXユニットを設置いたしました。

ここではLMSの新たな機能として学生が自ら考えたこと、その考えを繋げたこと、応用したことなどを自己評価できる仕組みを構築中です。また、動画コンテンツの管理配信システム(右図)には、どのような箇所を繰り返し視聴したかなどログデータを蓄積できる機能が盛り込まれる予定です。

本学には医療各分野はもちろん人工知能の専門家など多彩な教員がおります。学際的な研究を進め、皆さんの「一歩先の学び支援」ができるよう努めてまいります。